

# 事業所における自己評価結果(公表) 【児童発達支援】

公表:令和 6年 2月29日

事業所名: こどもの家すくすくえんせんたー風のことり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		活動内容によって(鬼ごっこなど)は、ロッカーの位置を変えるなどして、スペースの使い方を工夫している。 誕生会など人数で開放にするようにしている。 人数に合わせて部屋の場所を変更したり、部屋を開放したりしている。	その日の利用人数や活動の内容に合わせて間仕切りを開けたりロッカーの位置を変えたりしながら、適切な広さの中で活動ができるように、改善していきます。
	2	職員の配置数は適切であるか	○		丁寧に支援が行えるようにゆとりを持って配置できている。 子どもたちの様子や活動内容に合わせて、配置人数に追加で職員が入ることで、子どもの苦手さや困り感に適切に対応できるようにしている。 人数の少ない場合も、活動によっては職員をプラスすることもあります。	今後も子どもたちの様子を見て、職員を手厚く配置できるようにしていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		提供のおもちゃの種類や数を調整したり、子どもの視界に入る場所に必要のないものを置かないなど、環境調整に気をつけている。	環境調整は子どもたちにとって、とても大切であると考えています。子どもたちが安全に過ごせて、活動に集中して取り組めるように適切な配慮をしていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		午前と午後の活動の合間にも掃除を行い、清潔を保っている。活動が全部終わった後は、毎日掃除をしている。 運動遊びなどで部屋を広く使いたいときにはロッカーを端に寄せる等、活動に合わせて空間の使い方を工夫している。	掃除、消毒等は毎日行っています。仕切りの間や棚の後ろなど、細かい部分まで注意しながら、今後も清潔に保っていけるよう、努めていきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		活動前には打ち合わせをし、活動の流れや子ども一人ひとりの支援の在り方を共有したり、活動後は振り返りをするようにしている。	振り返りを丁寧にしながら、次の活動へきちんとつなげてい流れをつくっていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		保護者の評価表を全職員で確認し、保護者の意見を全員で共有できるようにしている。	保護者からの評価表を共有し、改善できる箇所を改善しながら、よりよい施設、支援につなげられるように努力してまいります。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		事業所のホームページで公開している。	保護者の方の実際の声を聞き、自分たちの意識を高めながら、よりよい支援を提供できるように評価を真摯に受け止めて、改善できるようにしていきます。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		月に1度は園内での研修を行い、その中で、虐待や身体拘束、感染症対策等しっかりと行っている。また、外部での研修に参加した時には、きちんと伝達できる時間を設けて、周知、共有できるようにしている。 園内研修を通して、子どもの発達やあそびの展開、アレルギーのこと等、幅広く学べる機会を設けている。	園内研修は、年間で学んでいきたいことを計画して行っています。 外部への研修に行く機会もあり、質の向上に努めています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		保護者からのアンケート、発達検査の結果等を総合的に検討しながら、支援計画を作成している。 担当職員だけではなく、一緒に活動に入っている職員とも共有してアセスメントを行っている。	必要に応じて、専門職による発達検査を行っています。 児童発達支援計画を作成するにあたり、今後も複数でアセスメントを行い、保護者の方からのアンケートや面談を通して、保護者のニーズや子どもたちの課題、困りごと等の情報を共有していきたいと思っています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		アセスメントシートの活用や、希望に応じて発達検査を実施している。	今後もアセスメントシートを活用し、子どもの姿に即して支援計画を立案できるようにしていきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○		ガイドラインに沿って、一人ひとりに必要な支援を検討している。 支援計画を保護者にお返しする際にはガイドラインにも触れながら、ご説明させていただいている。	今後もガイドラインに沿って、子どもたちに必要な支援内容を設定していきます。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		登園してくる子どもたちの発達や支援計画の内容を職員間で共有しながら、どの職員でも同じような支援ができるようにしている。	引き続き、支援計画に沿って支援ができるように、職員間での連携を深めていきたいと思っています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		活動内容を考える際は、一人で考えずに相談しながら考えている。 子どもの人数によっては職員が一人で活動に入ることもあるが、活動内容に困ったときには、複数で相談しながら決めるようにしている。 複数の職員で活動に入る場合にも事前の打ち合わせを通して、リーダー以外の意見も取り入れながら活動を決定している。	グループに入る職員同士連携をとりながら立案できていると思いますが、今年度はグループによっては1人で活動に入る日も多かったかと思いますが、そのような時にも、複数で見る機会や一緒に立案した職員と振り返りを一緒にしながら、子どもたちへの支援が充実できるようにしていきたいと思っています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		毎月のおたよりでお知らせはしているが、週ごとの遊びを決め、毎週異なる遊びができるようにしている。子どもたちの様子に応じて、二日連続同じ活動をする一方で、楽しみをより感じることや遊びが発展していくこともある。 月のおたよりで週ごとに様々な活動を計画しています。運動遊びや感触遊び、ルール遊び等、遊びが偏らないように意識して。	今後も登園する子どもたちが「楽しい」「またしたい」と思えるような遊びを提供できるよう、職員間での学びを含めて努めていきたいと思っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○		その子どもの課題や良いところを職員間で話し合いながら、支援計画を作成するようにしている。 朝の自由な時間を使って、子どもの好きな遊びや苦手な遊びも取り入れて、1対1で丁寧に取り組める時間を作っている。	子どもの課題となるところを個別や集団を適宜組み合わせながら、計画を作成していきたいと思っています。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		活動前には職員で打ち合わせをしています。 個別の支援に対する注意事項、支援内容についても打合せの中で共有できるようにしている。	事前の打ち合わせを今後も丁寧にしながら、子どもたちのそれぞれの課題に沿った支援ができるように努めていきたいと思っています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		活動後など、振り返りの時間を作り、活動内容や子どもへの支援方法等について職員同士振り返るようにしている。その中で解決しなかったことなどは、先輩職員や園長などに質問をして助言をいただいている。 時間があまりない時にも自分が気になったところは積極的に聞くようしている。どうすればもっと良かったか、次はどんなやり方でやってみるか、意見を聞くようになっている。	その日の反省を毎日行いながら、情報共有を漏れがないように、日ごろから、連携を図っています。また、次の活動に活かせるように、活動内容と個人の支援について気づいた点をしっかり共有していきたいと思っています。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		活動内容について記録を残し、支援計画を立てる際に、子どもの日々の様子を職員間で共有したり、見返すことができるようにしている。	子どもの様子、支援内容の検証と改善点について職員同士はもちろん、保護者の方とも共有しながら、日々の支援につながるようにしていきます。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		最低でも半年に一度は見直しを行っている。 また、発達検査後、登園日数や親子登園から分離登園への変更の時にも見直しを行いながら、支援計画が本人の姿や目標とずれることがないようにしている。	今後も子どもたちの姿や 困りごとに即した支援計画の立案を行い、支援ができるようにしていきます。
関係機関や保護者との連携関係	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達管理責任者や子どもの担当職員が参加するようにしている。	今後も日程を調整して、子どもの活動が参加している様子を見学することで、情報共有がしっかりと行われるようにしていきます。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		今年度は特に保健師さんと連携を取る機会も多く設けさせていただき、地域の担当の方と連携をはかった。  通っているお子さんによっては、必要に応じて保健センターの方や併行通園先の職員と連絡を取る場合もあった。  対象児がいないため、未回答。	今後も必要に応じて関係機関と連携をとりながら、支援ができるように努めてまいります。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○		対象児がいないため、未回答。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		対象児がいないため、未回答。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		必要に応じて、併行通園先の先生と情報の共有をする機会を作っている。 送迎時に併行通園先の先生と話をすることもある。  移行支援シートを作成する。	今後も必要に応じて、関係機関と連携をとりながら、支援ができるように努めてまいります。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		就学先と連絡を取り合い、対象児の様子等を引き継ぐ機会を作っている。	就学に向けて、移行支援シート、夢すこやかファイルを活用しながら、スムーズに移行できるように支援していきたいと思っております。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		公開療育や事業所連絡会を通して、他のセンターや事業所の先生と話をする機会を作っている。	外部研修や公開療育等を通して、自分たちの療育の質の向上に今後も努めていきたいと思っております。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○	療育と並行で幼稚園や保育園に通っている子どもが多いので、療育以外の場所で交流ができています。  ほとんどの子が幼稚園、保育園等に就園しており、併行通園をしています。  風のこたりの活動において、幼稚園、保育園、こども園、他の事業所との交流の機会はないが、併行通園しているお子さんが多いので、こたりの子どもと活動する機会はあるように思う。	風のこたりの交流機会は設けていませんが、こども園、保育園、幼稚園等に就園しているお子さんも多いので、地域で交流されている方が多いかと思っております。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○		地域の支援センターの方々が参加するような会議には参加している。	今後も地域の支援者の会議に参加しながら、連携がとれる体制を維持、構築できるようにしていきたいと思っております。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		日々の連絡帳で様子等を伝えている。その中で、できていることや課題等も一緒に伝えている。  支援計画の面談時に、子どもの様子を伝え面談を行う。その都度保護者からの相談にも応じたり、マジックミラーから子どもの様子の見学も行っている。	連絡帳や送迎時の引継ぎ等を通して、保護者の方とは子どもの様子を共有できていると思っております。 今後も、困りごとや心配事などその都度相談ができるように話しやすい雰囲気づくりや、急な見学面談等にも対応できるようにできる限り、ご協力していきたいと思っております。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		親子通園の保護者には、その都度子どものかかわり方などを伝えるようにしている。また、必要に応じて面談をしたり、来園指導を通して、教えて頂いたことを書面や口頭で丁寧に返すようにしている。	引き続き、面談や日々の活動を通して、保護者の悩みに寄り添い、子どもの成長をともに喜びあえるよう努めていきたいと思っております。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約の際に、丁寧に説明をしている。	今後も契約時に、丁寧に説明させていただきたいと思っております。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		支援計画の裏面に載せており、支援計画を返す際に、毎回説明をしています。	支援計画の更新の際に今後もご説明させていただき、ガイドラインについても日々、確認しながら、それに基づいた支援計画が作成できるように努力していきます。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		保護者の方から相談があった際は、面談する場を設けるなどして対応しています。親子グループでは、その都度活動の中で、子どもへの関わり等を伝えることもあります。	引き続き、担当、児発管、心理士が適宜面談ができるように、日々の連携や子どもの様子や発達段階の共有等していきたいと思っております。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		父母の会、保護者会のような組織がない為、保護者同士の連携が十分に行えていないかもしれませんが、親子グループの活動の中で、先輩お母様とつなげていくことや、母親教室等の勉強会、こどもたちへのプレゼント製作などを通して、関わりが持てる場を作っています。  父母の会等はないが、毎年子どもたちへのプレゼントづくりを、保護者の方にも協力をいただき行っています。その中で、子育ての話や保護者自身のお話などをしており、例年盛り上がりがあります。  保護者の方のご協力を頂きながら、子どもたちへのクリスマスプレゼント作りを行いました。	父母の会、保護者会等は実施していませんが、引き続き子どもたちへのプレゼント製作等を通して、保護者同士の話ができる場を設けていきたいと思っております。  母親教室も今年度は、定期的に開催することができなかったため、年間で計画をたてながら、テーマごと、年齢ごと等で語り合える場、学びあえる場を企画していきたいと思っております。  クリスマスのプレゼントは今年も子どもたちに大好評でした。ご協力ありがとうございました。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		相談等の依頼があった際は、その都度対応している。	今後も相談や申し入れに迅速に対応できるようにしていきます。 対応したことをしっかりと他の職員とも共有していくことも忘れず、安心してご利用いただけるように努めていきます。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		毎月一回、おたよりの発行をしています。その中に、活動内容や行事予定を掲載しています。また、不定期ではありますが、ブログの方でも子どもたちの活動の様子を公開しております。	毎月の園のおたよりをなるべく早くホームページにアップできるように、また、ブログの更新もできるようにしていきます。
	38 個人情報の取扱いに十分注意しているか	○		個人情報等の資料は、鍵のかかる棚に入れて保管しています。	引き続き、個人情報の取扱いには十分気をつけていきます。
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		難しい言葉や、わかりにくい表現はなるべく避け、具体的でわかりやすい表現で伝えられるように心がけている。	視覚提示や、書面での情報共有など、それぞれに合った情報伝達でコミュニケーションが図れるように、今後も個別の対応を丁寧にしていきます。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		近隣の方を招待するような行事の計画がないので、できていないが、地域の町内会の総会や休日の清掃活動に参加するなど、できている。 行事等への招待ではないが、総合防災訓練の際は、事前に近所の方にも、子どもたち手作りのお知らせのお手紙を配っている。	地域の清掃活動や、町内会の総会等の参加し、近隣の方と職員の交流が図られて、ご近所の理解が深まってきたように感じています。 今後も地域に開かれた運営ができるように、できることを行っていきたいと考えています。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		毎月一回、避難訓練を行っています。マニュアル等は、保護者の方がいつでも見れる場所に設置してあります。	マニュアル関係も保護者が自由に閲覧できるようにしています。 避難訓練も一緒に行いながら、非常時に備えていきたいと思ひます。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		毎月一回、避難訓練を行っています。訓練の内容を変えたり、火災の際は、火元を変えるなどして、もしもの発生に備えています。	今後も避難訓練を定期的に行っていきます。 訓練を重ねながら、情報の更新や自分たちのスキルアップを行っていきます。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		入園時に情報共有し、成育・健康履歴などで、確認を行っている。 健康診断の時には母子手帳を囁託医の先生と確認している。	肘内障、アレルギー、熱性けいれんなどもしっかりと職員間で情報共有し、事故等につながらないようにしていきます。
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		医師の指示書のに従い、除去食、代替食の提供を行っています。	対応ミス、誤配がないように、十分に配慮し、今後も事故のないようにしていきます。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハットの内容は、担当職員が記入後、全員で内容を確認できるようにしている。	ヒヤリハットの事例をその都度確認しながら、大きな事故につながることを未然に防いでいくことを習慣づけていき、子どもたちの安全を見守っていきたく思ひます。
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		毎年一回、虐待の研修を職員全員で受けています。	毎年、虐待研修を積み重ねながら、子どもたちの安心安全な生活を確保していきます。	
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		現在、風のことに身体拘束が必要となるお子様は通っていないが、毎年一回、身体拘束等も含んだ研修を職員全員が受けている。 対象児はいませんが、虐待研修で、身体拘束に対する話があったため、意識しています。	必要となるお子様が通われる際には、保護者の方にもしっかりと説明を行い、支援計画にも記載していくようにします。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

○ 「はい」、「いいえ」の欄は、数を記入するのではなく、職員による自己評価結果を踏まえ、職員全員で討議した結果について回答すること。(該当する方に○を記入)